

# わがまち まじぬ

発行 わがまち大田馬込地区推進委員会  
事務局 馬込特別出張所

大田区中馬込3-25-5  
☎(3774) 3301(代)

## 馬込のシクラメン

科名  
和名

さくら草科  
かがりび花



シクラメンの花を見ると、年の瀬が近いことを感じさせるほど、私たちの生活の中にこの花は定着しています。そこで今回は馬込のシクラメンについてふれてみました。シクラメンの原産地は、ギリシヤ、シリアなど地中海沿岸地方で、森の中、丘陵谷間などの半日陰の場所に群生していました。

三百年以前からドイツ、フランス、イギリスなどで小輪系の品種(原種に近いもの)を栽培していましたが、鉢物として育成されたのは十六世紀後半で、イギリスで交配が行われ、その後ドイツ、オランダ、フランスなどで改良が進み、現在のような大輪種ができたのは1890年頃だそうです。ギリシヤの国花でもあるシクラメンの原種は受精すると、はながらがラセン状になるため「円」「旋回」の意から、サイクルメン・シクラメンとなったそうです。現在の園芸品種ではこの性質は見られません。

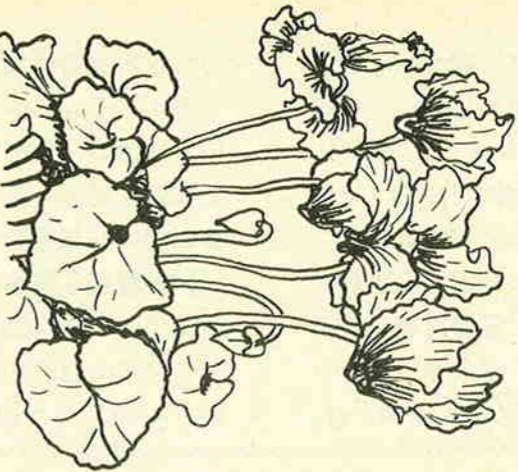
日本には明治後半に渡来して、ブクサノシユウ(豚の饅頭)とよばれましたが、これは気の毒と牧野富太郎がカガリビバナと名づけました。が、今は使われていません。馬込でシクラメンを始めたのは昭和27年頃からで、園芸研究会の野村芳雄氏、園芸学校でシクラメンを知った波田野章氏が最初だったようです。

当時は、野菜と菊の栽培をしていましたが、菊は連作が難しいのに対し、鉢植えで高級品であり、十二月の贈答期に花が長持ちし、次から次へとつぼみが上って長い期間楽しめるので、先を見越し、地元の方々が加わるようになりました。

贈答期にシクラメンの花を咲かせるには、夏は涼しい所に置いて成長を促す必要があり、昭和40年から高涼地へ鉢のまゝ移植させるようになりました。(東京都松原村など)しかし多い時には一軒で一万何千鉢もトラックで移転させるので、人手が多く必要で大変だったようです。そして十月下旬の涼しくなった頃また馬込に戻っていました。これは人手がいり重労働なので、現在では大々的に栽培している所は、わずか三軒になりました。が「昨年の花がとても評判が良かった」長い間花を楽しめた」とのお客さんの声に支えられ、今年もまた忙しい時期を迎えているようです。

松原村への移転は

平成元年でやめ、馬込でも涼しく過せるよう工夫したり、もう少し近い地で夏を過ごしたり、それぞれの方法で十二月に入る頃に花が美しく咲きそうようにしています。



上手な育てかた

○ガラス越しの日光によく当てる。二〜三時間でもよい。

○夜間低温になる場所を避ける。また、箱をかぶせる等保護をする。

○暖房は花の寿命を短くする。

○水はたっぷり土が乾いてからやる。

○傷んだ花や葉は取り除く。

## 日本拳闘界の草分け

白田金太郎(その一)

明治40年、白田坂下の材木問屋の次男として生まれた金太郎氏は少年の頃から力自慢で、八幡様の相撲大会でいつも優勝し、馬込の大関といわれていました。

16才に日本拳闘クラブに入門、19才で日本初のライト級チャンピオンとなりました。

大正13年に明治大学入学、拳闘部を創り活躍、昭和2年には学生ボクサーとして米国を転戦、大きな米国人をバツバツと打ち負かし、西部11州のウェルター級のチャンピオンとなり「東洋のジャガー」と呼ばれました。

昭和3年第9回オリンピックがオランダで開催。織田幹雄(三段跳び)鶴田義行(200米平泳)らと共に、日本初の拳闘選手として出場しました。

当時外国へは飛行機ではなく、当時は朝鮮へ渡り、満州、シベリヤ鉄道でモスコ、ベルリンを経てアムステルダムに着く15日間の苦痛の長旅で、血尿をもらす選手もいたそうです。

到着の翌日から試合でしたが、一、二回戦を勝ち進み、準決勝で、カナダの選手に惜敗しました。金太郎氏の試合に人見絹枝選手が、リングサイドで熱い声援を送っていたそうです。

この時の審判が不公平で「ジャパンの白田は審判に負けた」と各団に報道されました。郡司信夫著「ボクシング百年」

に「相手の出血はひどく、よたよたとろめきな段違いに白田が優勢だったが審判はカナダ選手に手をあげた。

観客はもろろん、外人記者までこの判定に不服だった」と書かれています。

しかしこの後、日本のボクサー「白金」から東洋のジャガー白田と世界にその名を知られるようになりました。(以下次号につづく)



写真のメタリは昭和2年にチャンピオンを獲得した時のメタリ  
写真、資料は白田義行夫人から提供

## まごめ情報

「ごみは祝祭日でも回収します」も原則として回収します。

今年休んだのは一回だけです。回収を休む時は必ず回収場所に掲示します。

大田区清掃事務所から『馬込は火事でウースト』今年一月〜十月までの間、大森消防署管内で、なんと90件もの火事がありました。馬込は件数でも、焼けた面積でも管内第一です。

一年中で火事の最盛期は、年末年始です。天ぷら油と、タバコの火の用心!! 火の用心!!

### 南馬込文化センター

南馬込3丁目の高台、住宅街の白い三階の建物が、南馬込文化センターです。裏には大倉山公園があり緑に恵まれた、とてもきれいな整った社会教育の施設です。昭和60年12月12日に開設。今年で7年目です。当初は、体育室がなく、

### 馬込文化センター

皆さんは、馬込文化センターを利用されたことがありませんか。昔は馬込のにんじん畑だった所を大田区が譲り受け『馬込青年館』が開設されました。昭和55年4月のことですが、その後、60年4月に『馬込文化センター』

## 出会い・ふれあい・みかぎ合い 一年中無休の文化センターの紹介

と名称が変わり13年目を迎えます。現在、115もの登録団体が活動しているほか、地域の特性を生かした各種の講座が開かれています。◆馬込文士村の地域性を生かして馬込文士村が有名に家たちをとりあげて毎年開催。○文学講座や講演会―ゆかりの作

出会いとふれあいの広場でもあり、学習、文化、スポーツ活動など、社会教育活動の拠点でもある『馬込』『南馬込』の両文化センターを紹介します。多くの方に利用されていますが、まだ、ご存じない方も、どうぞ!! 文化センターには、体育室、大小の集客室、調理室、和室やロビー等があり、主に社会教育団体の登録をしたサークルの皆さんの活動の場として、大いに利用されています。現在、『馬込』は一五団体、『南馬込』には一〇二団体が登録され、ヨガ、合唱、茶道、水墨画など自主的な活動も行っています。このように利用団体への場所の提供のほか地域の学習のきっかけづくり、仲間づくりのため、文学・美術・手芸・料理等、各種の講座を開くことも文化センターの大切な仕事といえます。

来年三月初めの土、日曜日の予定です。皆さんは、文化センターが、年中無休なのをご存じでしょうか。年末年始(12月28日~1月4日)を除いて、毎日利用ができるのです。◇使用時間(9時~21時30分) ◆日曜祭日(9時~16時30分)

登録団体は30でしたが、62年10月に待望の体育室が完成し、現在では102もの団体がこの『南馬込』で自主的な活動を行っています。最近『南馬込』で企画した斬新な講座の一部を紹介します。語学では珍しいアジアに目を向けた、タイ語入門、トルコ語入門の講座を開きました。また大変に

◆地域の要望や変化に応じて

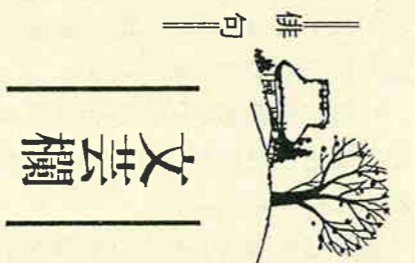
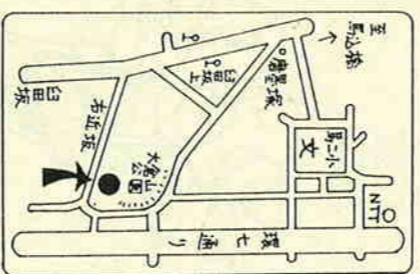
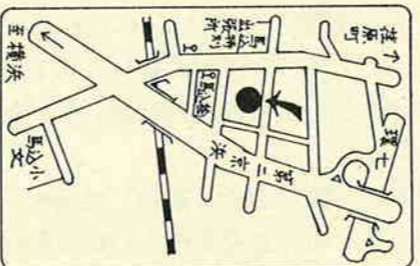
○子ども映画会―10年も続いています。毎月第三日曜に実施、小学

生以下を対象にアニメを上映。○映画会―隔月に実施。「講演と映画の集い」も6年目。○親子料理教室―学校五日制の受け皿。親子いっしょの体験として企画。(来年3月まで行つ)

○保育つき講座―子育て期の女性の方が受講しやすいように計画した講座もあります。語っておられました。

人気のあった講座は「指圧健康法」で、定員20名の所、41名もの応募がありました。地域の方々の希望を生かした講座を企画するように努めています。

これから、もっと多く、もっと広く活動の輪を大きくしていきたいものです。



### 文芸欄

吹きたまる落葉に露地のゆきどまり  
新樹会 友枝よしの  
山茶花におまねく日和つぎぞり  
新樹会 五十嵐啓一

愛犬の死  
露の身や君ゆく黄泉の野は秋か  
香煙のかそけし今宵月うるむ  
南馬込一 森岡 達吾  
神苑の石獸落葉かぶりぞり  
落葉尽しささやき含へり樹々の枝  
南馬込一 平林 美好  
冬陽ため石碑に残る荏原郡  
南馬込一 加藤 正尚

短歌  
木枯しを乗せて干切れし雪雲が  
昔にまぶしく師走の町に  
和泉会 浜崎千恵子  
冬椿そのみどり葉の瑞瑤し  
坂の行き来に暫し佇み見る  
和泉会 伊藤すみゑ

はや歳の暮れかと言いついさ  
さかの折目と小きみ門松求む  
和泉会 川上 一真  
水田の穂 刈りとられ焼畑に  
動く人影早や見ゆ 九月  
あるか自問自答の旅なり今は  
南馬込一 永山 和枝  
秋風の流るる庭に出でし時  
秋桜の花 母と重なり  
中馬込三 鈴木 幽峰

茜さす日向の灘を眺めつつ  
バスひた走る一ツ葉海岸  
中馬込一 浜崎千恵子  
○御投稿をお待ちしています。

### 情報往来

◆区民綱引き大会  
10月10日の綱引き大会。春から27回の猛練習を続けた馬込チームは、昨年優勝した鶴の木チームに予選で当たり、残念ながら紙一重の差で惜敗。来年を期し猛練習!

◆ふるさとめぐり(四)梅田小集合  
11月1日、快晴。馬込青少年対の主催で300人が参加、楽しい一日でした。桜並木が昔は川で「かっぱ」が住んでいた話。農作業に使った牛を洗った「牛洗井戸」の話。等もあり、日頃、身近にあっても気がつかなかった事など、松本先生の話がおもしろく、時のたつのを忘れました。

◆古代の世界へタイムスリップ  
多摩川台公園に古墳展示室がオープン(11月3日、室内は、石室を再現し、出土したはにわ、鏡、刀剣、勾玉等のレプリカを展示しています。 ☎ 3721・0162

◆秋野菜と花の品評会(43回)  
区内の農家が生産した野菜など(大根、白菜、にんじん)と、花(シクラメン)などの展示即売会が今年も11月29日に矢口小体育館で開催、馬込の農家からも出品

来春は馬込小の予定です。  
編集後記  
文芸欄に御投稿ありがとうございました。一同喜んでおられます。しかし、小人数の編集ですので馬込地区すべてに届くはとどかず、身近な情報が集めきれません。どんな小さなことでも結構です馬込の情報をお知らせください。